

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>1 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p>	<p>地域の中でその人らしく暮らせるよう意識したサービスを提供できるよう、理念を掲げている。</p>		
<p>○理念の共有と日々の取組み</p> <p>2 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	<p>日々の申し送りやミーティングなどで理念を確認し合い、どのようにしたら良いか意識し、関わるようにしている。</p>	○	<p>個人面談などを利用し、さらに理念の共有ができるよう取り組んでいきたい。</p>
<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>3 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。</p>	<p>運営推進委員会では、グループホームの取り組みを通じて理念の理解を深めている。ご家族の方へは、ホーム便りを活用したり、面会時も積極的に話すようにしている。</p>	○	<p>ご家族の方に理解していただけるよう、ホーム便り等に積極的に取り組む。</p>
2. 地域との支えあい			
<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>4 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p>	<p>地域的に周りに住宅等がなく近隣との交流は難しいが、隣接する援護寮(三心館)・札幌トイカ病院の庭園、野菜畑などが散歩コースとなっており交流を深めている。</p>		
<p>○地域とのつきあい</p> <p>5 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	<p>地域の小学校が授業の一環として、お年寄りの生活を学ぶ機会を設けているため、その受け入れ口となっている。その他、ボランティアの方の受け入れや地域の方々との交流を図るよう努めている。</p>		
<p>○事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>6 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>	<p>ホーム便りに様々な活動内容を載せている。また、地域への取り組みとして相談機関などの役割を担っている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自己評価・外部評価の意義を確認し、評価をもとにミーティングなどで話し合い改善に向けている。		
8 ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議では、サービス内容及び日常生活の様子・レクでの様子などを発表し、意見を交換をしている。意見・要望があった際は、職員全体で話し合うようにしている。		
9 ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	地域包括センターの方に勉強会として、グループホームに来ていただいたり、区役所の担当の方と情報交換を行い、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
10 ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	制度としては理解しており、必要に応じて家族と話し合いを設けている。	○	新人職員に対して、成年後見制度の勉強会を設ける。
11 ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	高齢者虐待防止関連法は理解している。ミーティングなどで話し合い、虐待は注意している。		
4. 理念を実践するための体制			
12 ○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	説明を十分に理解・納得を図っている。	○	見学・体験・外泊などを行い、説明を十分に行っていく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
13 ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者の日々の言動に注意し、意識して関わり、利用者本位の運営を心掛けている。		
14 ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	健康状態が不調の時などは電話連絡をしている。面会時には積極的に日頃の様子を報告しているが、タイミングが合わない時はお便りやFAXなどで情報交換している。金銭管理も月に1回、記録を郵送し確認している。		
15 ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご家族に対しては、面会時や電話・手紙等で意見・苦情等何でも言い出せるような雰囲気作りには留意している。解決策は職員全体で話し合いを持つようにしている。		
16 ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	ミーティングは定期的に行い、気軽に意見を出せるように心掛けている。その他、最低年1回の個人面談を行い、職員一人ひとりと向き合う場を設けている。		
17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	利用者の状況の変化には、職員で話し合い出来る範囲で柔軟に対応している。ご家族の状況の変化への対応にも努めているが、難しい所もある。		
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	馴染みの職員による支援を受けられるように、異動・離職を最小限に抑えるよう話し合いを設けている。やむを得ない離職の場合も引継ぎや時期の調整に努力している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>事業所外で開催される研修の情報は積極的に職員に流しており、休みを利用して自ら受講することが多い。</p> <p>研修後の報告もミーティングや回覧などで職員が情報を共有できるようにしている。</p>	
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>関連の事業所などと交流を持ち、サービスの向上・意識向上を目指している。</p> <p>取り入れられそうな事は職員で話し合い、サービスの提供に活かしている。</p>	
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>話し合いを常に持ち、現場の状況を把握し、協力している。</p> <p>休みを確実にとり、連休にしたり、ストレスの軽減を図っている。</p>	
22	<p>○向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	<p>現場で起きている状況や変化・職員の対応等を知るため、現場に行くよう心掛けている。職員とコミュニケーションをとりながら、各自が向上心を持って働けるよう意識し、環境づくりに努めている。</p>	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>入居に当たり、何度も本人と会う機会を設け、話をよく聴き、心配事などを受け止め、信頼関係を築けるよう努めている。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>相談から利用に至るまで、面談や電話のやり取りなどで、出来る範囲で受け止める努力をしている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	在宅の方はすでに沢山のサービスを利用されている方が多い為、入居相談などを受けた時は話を良く聴き、提供可能なサービスについての説明を徹底している。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	利用者の状態を良く知り、ご家族からも可能な限り情報を集め、それをもとに職員で慎重に関わっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	本人の思いや、根本にある不安・苦しみ・ストレス・喜び等を探る努力をし、共に支え合える関係作りができるよう努める。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	利用者の様子や、職員の思いをできるだけ細かく伝え、ご家族の思いを聞き、職員とご家族の思いを一致させ、本人を支えていくための協力関係を築いている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるよう支援している。	情報交換を密にして、より良い関係が築けるよう支援している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	ご家族の方々を通じて会う機会を設けるようにしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	食事やおやつの時間には、職員と共に過ごし、会話をするように心掛けたり、利用者同士の関係を取り持つような関わりを意識している。人との関わりが苦手な方には、個別でゆっくり話す時間を作り、孤独感を感じさせないように努めている。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	入院等でサービス利用が終了してもご家族の方の不安が少しでも軽減できるようにお話を聞いたり、相談にのったり、面会に行き様子を見に行き、元気づけたりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	毎日の関わりの中で、希望や意向を聞きだし、把握に努めている。言葉だけではなく、表情等から感じ取り、それとなく確認するようにしている。疎通困難な方には、表情変化を感じ取るだけではなく、ご家族から情報を得るようにしている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	本人やご家族から、どのような生活を送られてきたのか等、聞いたり関わりの中で引き出すようにしている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	利用者一人ひとりの生活のリズムを理解すると共に、行動や動作から感じ取り、全体像を把握している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいる項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	<p>○チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。</p>		
37	<p>○現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。</p>		
38	<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39	<p>○事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。</p>		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40	<p>○ 地域資源との協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。</p>	○	<p>社会福祉協議会にボランティア登録を行っている。管理栄養士に来てもらい、食の大切さを話してもらう。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	利用者の希望により訪問理美容サービスを利用している。他にもサービスを利用してカラオケ・手芸・書道などを行っている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	運営推進委員会に定期的に地域包括支援センターの職員に参加していただき、本人の意向に沿えるような意見をいただいている。	○	これからも運営推進会議を通じて、地域包括支援センターの方に様々な意見をいただけるよう努める。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	病院(併設)があり、常に連絡し合える状況にあり、何かあれば連絡調整を行っている。また、受診後や薬の変更には、ご家族にその都度連絡して、情報を共有し、ケアにつなげている。他科受診の場合も、本人・ご家族の希望を聞き、そのように支援している。		
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	併設病院、協力病院のかかりつけ医を確保している。		
45	○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	併設病院があり、いつでも気軽に相談できている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	随時、医師・看護師との連絡調整を行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいる項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	本人の状態の変化に伴い、情報を共有しご家族の意向を大事にしつつ病院やホームで出来る最大の支援を行えるよう、その都度話し合うようにしている。		
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	本人やご家族の意向を踏まえ、医師・職員が連携し、随時、意思を確認しながら取り組んでいる。		
49 ○住替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関するケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	新しい住まいでも、これまでの暮らしの継続性が損なわれないよう、生活環境・支援の内容・注意が必要な点について、情報提供し、きめ細かい連携を心掛けている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50 ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	利用者の人格を尊重し、言葉掛けや対応を行っている。他のご家族に対して、プライバシーに関する事を話さないように徹底している。		
51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	本人の希望を重視し、自主的に決定できるような働きかけをしている。		
52 ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	利用者の体調や気分に合わせてながら、個々のペースを大切に、支援している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいる項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	訪問理美容に月2回来てもらい、利用者の希望に応じている。衣類は、本人が選ぶよう見守り、必要に応じて支援している。		
54 ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。	メニュー係を中心に利用者の好みや苦手なものを踏まえたメニューにしている。食事作りから後片付けまでの一連の作業を体調や気分を配慮し、共に行い、利用者と職員が同じテーブルを囲み、和やかに食事を楽しんでいる。		
55 ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	飲水、おやつ等は本人の好みを聞き、希望にそうようにしている。職員も一緒に席に着き、ゆったりとした雰囲気作りを心掛けている。		
56 ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	日々のケアの中で、十分な観察をし、ケアプランのシートを用いて、排泄パターンを把握したり、サインを見落とさないよう注意している。また、個々のサインや癖は、職員間で情報交換している。		
57 ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	本人の体調や気分を考慮し、入浴を楽しめるように支援している。入浴を拒む場合は、タイミング見計らい工夫している。		
58 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	個々の生活リズムの中にケアを組み込み、本人のリズムに合わせたケアをしている。安心して休息できるよう環境を整えたり、安眠策も意識している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59	<p>○役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。</p>	ケアプランを通じて、毎日の生活の中で支援している。	
60	<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。</p>	個人での金銭管理の希望者がなく、ホームで管理している。	
61	<p>○日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。</p>	ホーム周辺の散歩・買い物・外食など天候や利用者の気分に応じて、外出支援を行っている。また、花見・紅葉狩りなどご家族の方にも参加していただけるバスレクを年4回ほど実施している。	
62	<p>○普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。</p>	個別で外出する事は少ないが、出来る限り利用者の希望にそうように努力している。	
63	<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	利用者・ご家族には、いつでも電話ができるようにしている。	
64	<p>○家族や馴染みの人の訪問支援</p> <p>家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。</p>	いつでも訪問していただけるようにしている。また、来ていただいた際は遠慮なく、くつろいでいただけるような雰囲気作りができています。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	職員は理解しており、身体拘束はない。		
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	施錠せず自由な暮らしを支援している。日頃から利用者の動きには注意し、安全を配慮し、自由な暮らしを支えている。		
67 ○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	一人で外に出そうな時には、無理に止めるのではなく、さりげなく声を掛け、一緒に外に出たり、行きたい場所まで一緒に行くなどしている。日中は鍵をかけずに自由に暮らせるよう支援している。		
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	注意が必要な物品があった時は、利用者のご家族と話し合いをし、使用しない時はホームで管理し、事故防止に努めている。		
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	利用者に関しては、予想できる事は介護計画に立て、事故防止に取り組んでいる。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	緊急時に備え、マニュアルを作成し、徹底を図っている。		
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	年2回ほど、避難訓練を行っており、避難経路の確認・消火器の使い方などの訓練を定期的に行っている。		
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	その時の状況により考えられるリスクに対しては話し合いを行い、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を考えている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	職員間の情報交換ができています。変化に対しても、ホーム長またはリーダーに報告している。		
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	処方箋は、記録にファイルしており、職員がいつでも閲覧できる状態にしてある。新しく処方された場合は、職員にすぐに周知し、薬効等の注意点を知らせると共に、経過観察することで薬の理解ができています。		
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	便の状態に注意し、一人ひとりに合わせた支援をしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいる項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	歯磨きの声掛けを行い、能力に応じて見守り、介助を行っている。就寝前は義歯の洗浄・消毒を行っている。必要に応じて舌ブラシも使用している。		
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	日頃から利用者の食べ物・飲み物の好みや苦手な物を理解し、利用者一人ひとりが、一日全体で栄養や飲水量がどの程度摂取できているか、職員が常に意識しながら関わっている。普通食が食べられない利用者には、体調を考慮した上で形態を変える等の工夫している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	毎年、予防接種を受けている。また、プリント等による注意や対応の呼びかけがあり、それに従って実行している。予防接種を受ける利用者の方にはご家族にも同意していただき、職員もインフルエンザの予防接種を行っている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	調理用具は毎晩漂白し、清潔を心掛けている。なるべく作り置きはせず、冷蔵庫もこまめに点検、掃除し、食材の残りは鮮度や状態を確認して冷凍したり、処分している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	明るい雰囲気のある玄関になるよう、季節に合わせたディスプレイをし、季節感を出す工夫している。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	小物等で季節感を出す工夫している。リラックスできる空間作りを考え、ソファやテレビの位置を決め、配置している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	席決めはしておらず、好きな所に座っていただけるよう工夫している。		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	馴染みのある物や、使い慣れた物を持ってきていただき、使用するようになっている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	空調や換気を常に行っている。温・湿度計を設置し調整している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している。	共同スペースでの配置は、利用者の動線を最優先している。トイレ・廊下・浴室には手すりがあり、安全確保と自立への配慮がされている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	混乱する時間帯や場面を把握して、ケアプランに取り入れることで、本人に合わせた支援がされている。		
87	○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	天候の良い日は、敷地内の散歩や花壇の水やり、畑の整備など行っている。		

V. サービスの成果に関する項目		
	項目	取り組みの成果
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができていく	①ほぼ全ての家族 ②家族の2/3くらい ③家族の1/3くらい ④ほとんどできていない

V. サービスの成果に関する項目		
	項目	取り組みの成果
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<ul style="list-style-type: none"> <li>① ほぼ毎日のように</li> <li>② 数日に1回程度</li> <li>③ たまに</li> <li>④ ほとんどない</li> </ul>
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 大いに増えている</li> <li>② 少しずつ増えている</li> <li>③ あまり増えていない</li> <li>④ 全くいない</li> </ul>
98	職員は、生き生きと働いている	<ul style="list-style-type: none"> <li>① ほぼ全ての職員が</li> <li>② 職員の2/3くらいが</li> <li>③ 職員の1/3くらいが</li> <li>④ ほとんどいない</li> </ul>
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<ul style="list-style-type: none"> <li>① ほぼ全ての利用者が</li> <li>② 利用者の2/3くらいが</li> <li>③ 利用者の1/3くらいが</li> <li>④ ほとんどいない</li> </ul>
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<ul style="list-style-type: none"> <li>① ほぼ全ての家族等が</li> <li>② 家族等の2/3くらいが</li> <li>③ 家族等の1/3くらいが</li> <li>④ ほとんどいない</li> </ul>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)

家庭的な温かい雰囲気の中で、心のケアに気を配り、安心・充実した生活、そしてその人らしい生活が送れるよう努めている。また、自分が暮らしたいと思うグループホームを作るということを、全職員に明示し、それを実践している。